

都市再生整備計画事業 フォローアップ^o

【和泉中央駅周辺地区】
説明資料

目次

1.フォローアップについて

2.都市再生整備計画の内容

3.フォローアップの取組

4.成果の評価・効果発現要因

5.今後のまちづくり方策の検証

1. フォローアップについて

◆背景

令和5年度に行った都市再生整備計画事業の事後評価において、「道路・公共交通に対する市民の満足度」が目標未達成となっており、下記の改善策及び成果を持続させる方策に取り組みましたので、目標の達成状況を再確認するものです。

○改善策：ミスト発生器の設置、ホームドア設置

○成果を持続させるために行う方策：日常管理、定期点検

◆指標値の達成状況（R5事後評価時）

指標	従前値	目標値	評価値	達成状況	備考
1.居住促進区域内に 居住する人口	49,414人	49,910人	51,309人	○ 達成	
2. <u>道路・公共交通に対する 市民の満足度</u>	43%	50%	46%	△未達成	
3.人身事故件数	36件	30件	30件	○ 達成	
（その他の数値指標） バスターミナルへの一般車 交通量	479台/2H	—	2台/2H	—	補足指標として 事後評価時に 追加

2. 都市再生整備計画の内容

◆まちづくりの目標、整備方針

大目標：誰もが快適で安心して住み続けられるまち《スマイル（住もう・居る）都市》の実現

目標1：住み続けたいくなる快適な都市環境の整備（誰もが安心・安全に通行できる快適な駅前・道路空間の創出）

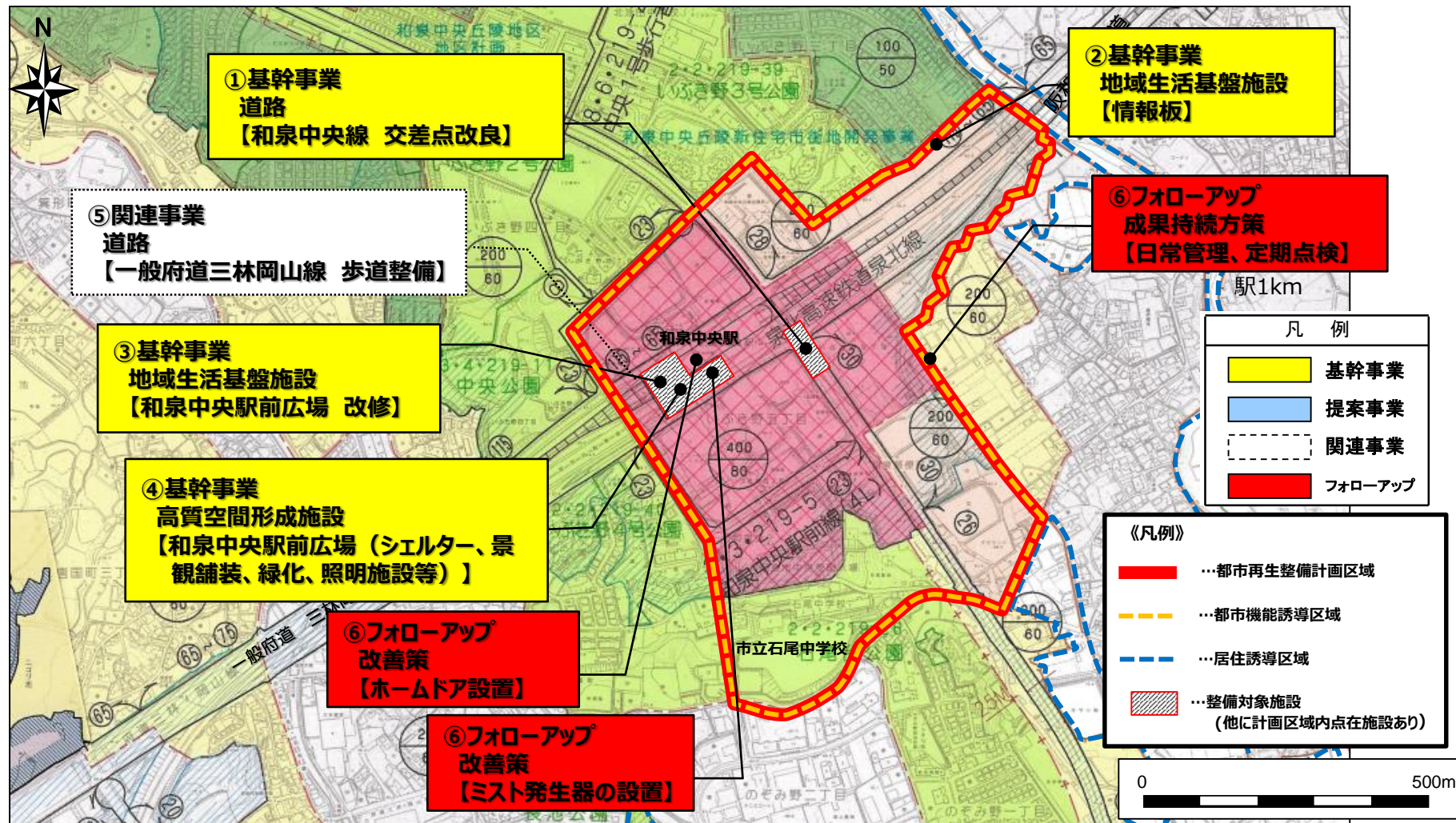
目標2：外出を容易にする交通機能の充実（利用しやすい公共交通の充実、交通結節点機能の改善）

目標3：地域の特性を活かした魅力あるまちづくり（住み続けたいくなるまちづくりを目指し、歴史・文化のまちとして発信できる駅周辺の機能の充実）

2. 都市再生整備計画の内容

◆まちづくりの目標、整備方針

整備方針に対応する主な事業



2. 都市再生整備計画の内容

◆まちづくりの目標、整備方針

まちづくりの目標と事業、指標の対応表

	目標1 住み続けたいくなる快適な 都市環境の整備	目標2 外出を容易にする 交通機能の充実	目標3 地域の特性を活かした 魅力あるまちづくり
基幹事業:【道路事業】 和泉中央線 交差点改良	○	○	
基幹事業:【地域生活基盤施設】 和泉中央駅前広場 改修	○	○	
基幹事業:【高質空間形成施設】 和泉中央駅前広場(シェルター、景観 舗装、緑化、照明施設等)	○		○
基幹事業:【地域生活基盤施設】 情報板			○
関連事業:【道路事業】 府道三林岡山線 歩道整備	○	○	
フォローアップ:【改善策】 ミスト発生器の設置、ホームドア設置	○		
フォローアップ:【成果持続方策】 日常管理、定期点検	○	○	○

3. フォローアップの取組

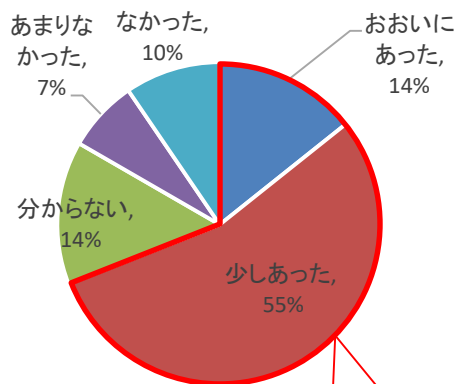
◆ミスト発生器の設置【改善策】

- ・駅前利用者の猛暑対策として、令和6年からミスト発生器の稼働を開始しました。
- ・アンケートでは、回答者の概ね7割で良好な回答が得られました。

ミスト発生器



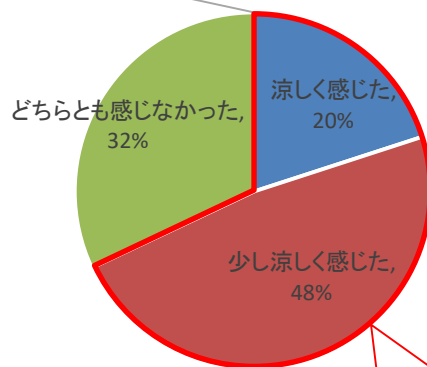
猛暑対策設備等の設置により、暑さ対策の効果があったと思いましたが



69%の方が効果を実感している。

ミスト発生器設置場所の感想

少し暑く感じた, 0% 暑く感じた, 0%



68%の方が涼しい、少し涼しいと感じている。



3. フォローアップの取組

◆ホームドア設置【改善策】

- ・和泉中央駅において、令和6年からホームドアの運用を開始し、公共交通機関の安全性が向上しました。

和泉中央駅 ホームドア設置状況



※令和6年7月20日に1番線ホーム、8月3日に2番線ホームでそれぞれ運用を開始しています。

3. フォローアップの取組

◆ 日常管理、定期点検【成果持続方策】

- ・ 日常的な清掃や維持管理に努めており、目立った損傷などは見られず、整備後の機能を維持しています。

駅前広場(一般車乗降場)



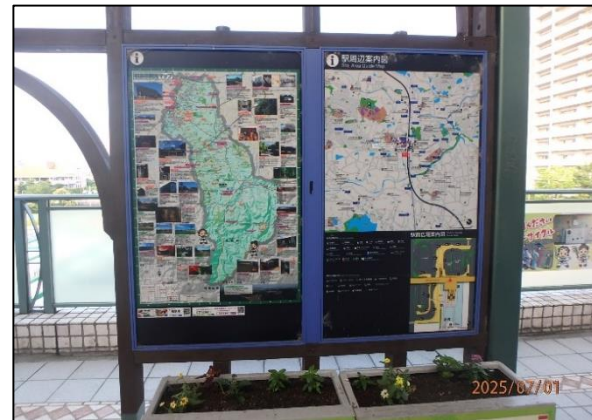
駅前広場(タクシー・一般車乗降場)



駅前広場(バスターミナル)



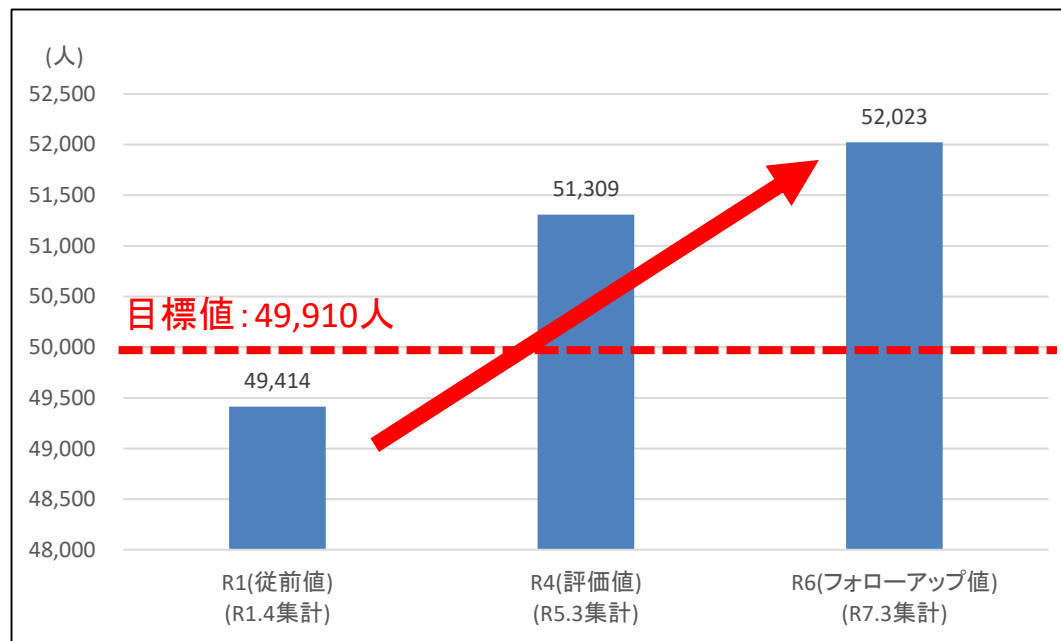
案内サイン



4. 成果の評価・効果発現要因

◆指標 1：居住促進区域内に居住する人口

従前値	目標値	評価値 (事後評価時)	フォローアップ 値	目標達成度
49,414人	49,910人	51,309人	52,023人	○ 達成



総合所見

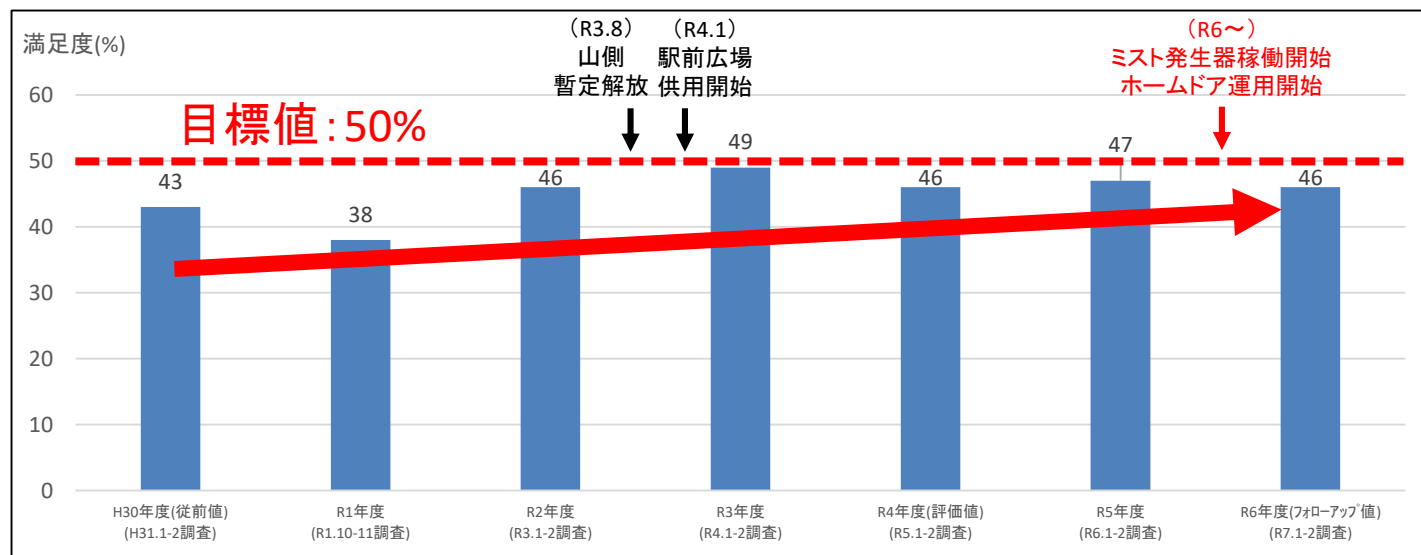
駅前広場の改修や情報板の設置等により、駅周辺の利便性や交通結節点としての機能が改善されたことが、継続的な人口増に寄与している。

[出典]和泉市住民基本台帳データから該当地域の人口を抽出

4. 成果の評価・効果発現要因

◆指標2：道路・公共交通に対する市民の満足度

従前値	目標値	評価値 (事後評価時)	フォローアップ値	目標達成度
43%	50%	46%	46%	△未達成



[出典]和泉市総合計画のアンケート結果を抽出

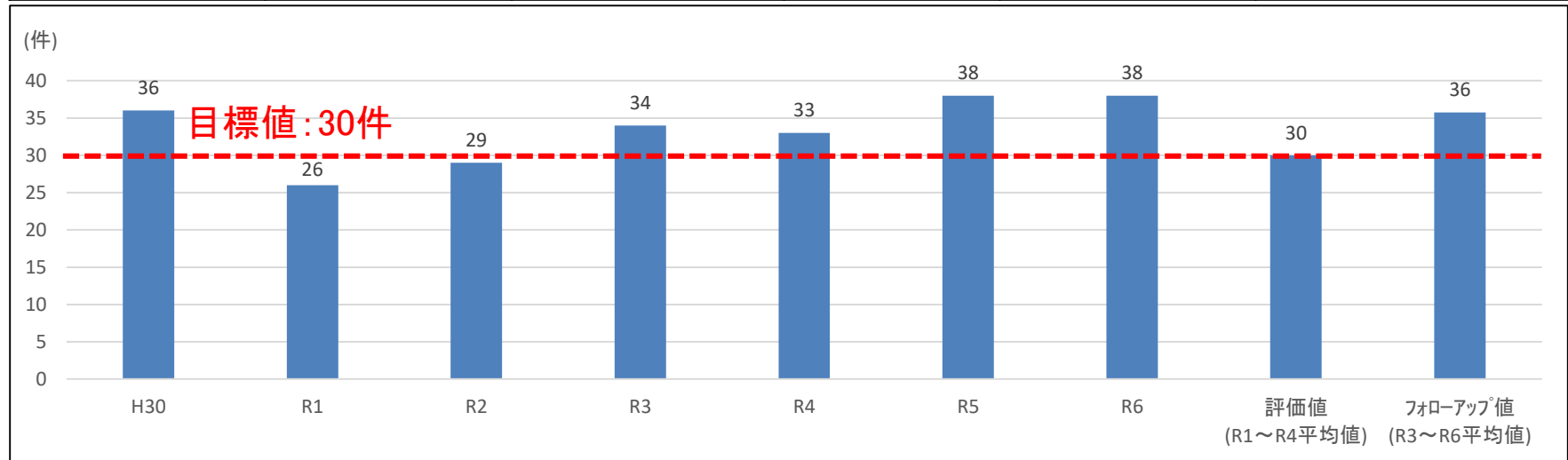
総合所見

定量的な数値で見ると目標未達成となっているが、駅前広場の改修やフォローアップの取組により、一定の効果が発現したと考えられる。

4. 成果の評価・効果発現要因

◆指標3：人身事故件数

従前値	目標値	評価値 (事後評価時)	フォロー アップ値	目標達成度 (事後評価時)	目標達成度 (フォローアップ時)
36件	30件	30件	36件	○達成	△未達成



[出典]和泉警察署よりデータ提供

※H27年～H30年の平均値40件から25%減となる年間30件を数値目標として設定しているため、評価値(フォローアップ値)は直近4か年の平均値としている。

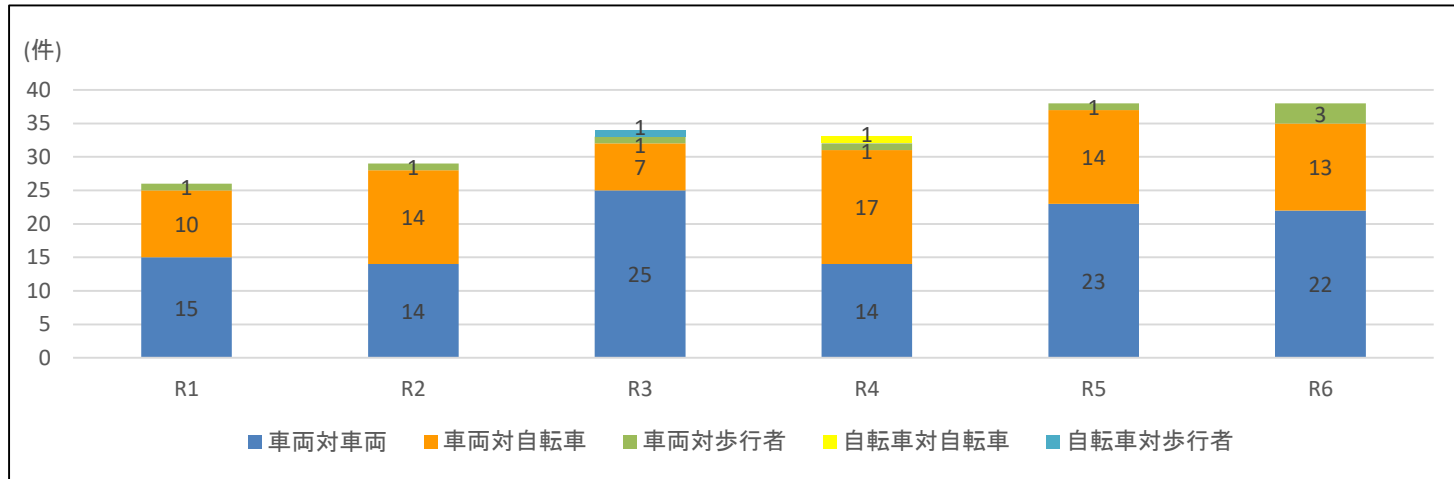
総合所見

事故件数は駅前広場の改修や交差点改良等により減少していたものの、直近の事故件数が増加していることが確認されたため、引き続き、事故状況の分析や交通安全対策を実施する必要がある。

4. 成果の評価・効果発現要因

◆指標3：人身事故件数内訳（参考）

	車両対車両	車両対自転車	車両対歩行者	自転車対自転車	自転車対歩行者	合計
R1	15	10	1	0	0	26
R2	14	14	1	0	0	29
R3	25	7	1	0	1	34
R4	14	17	1	1	0	33
R5	23	14	1	0	0	38
R6	22	13	3	0	0	38



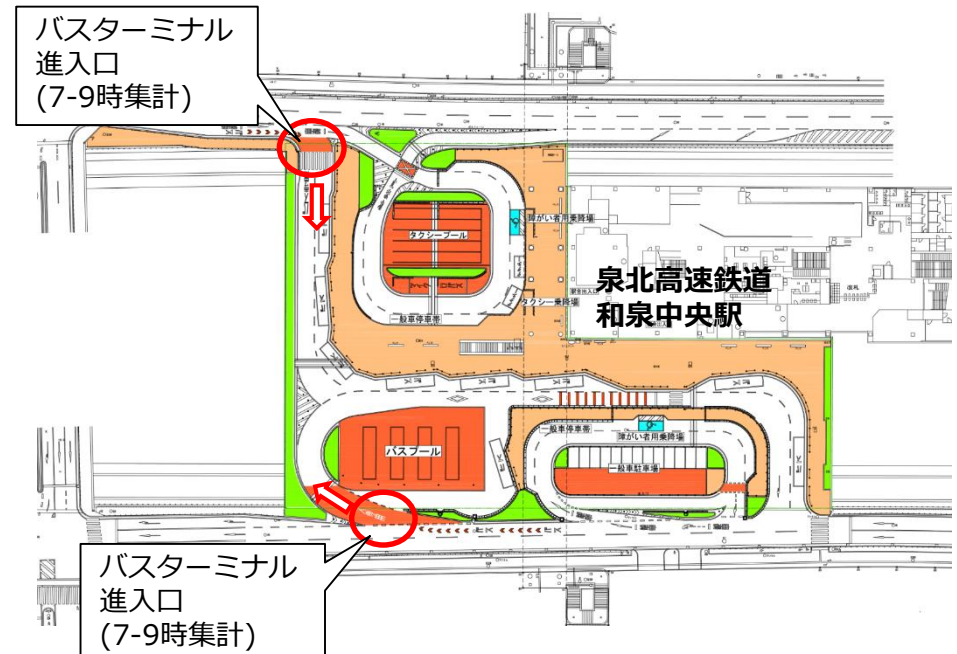
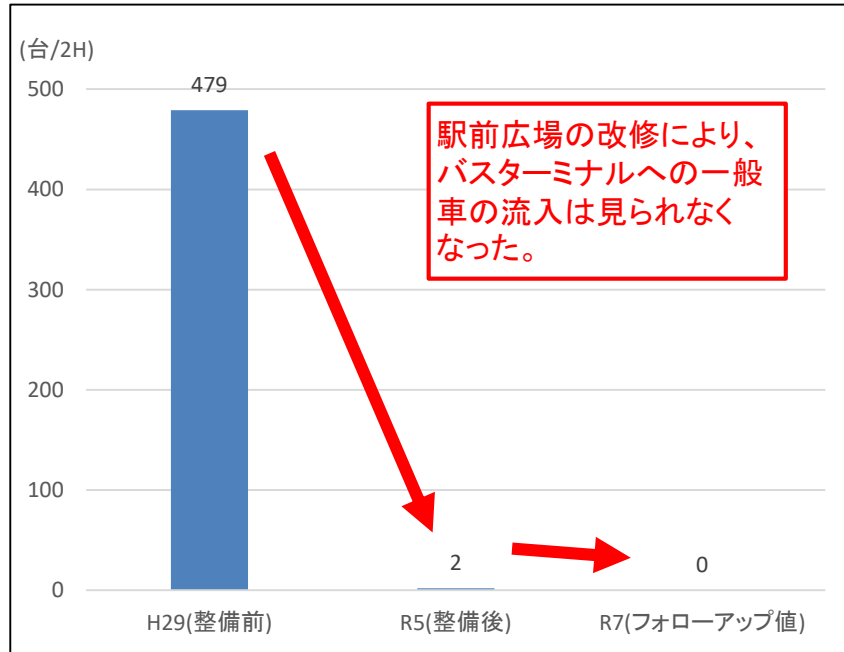
[出典]警察庁オープンデータ、あなたのまちの交通事故マップ

総合所見

- ・歩行者が関連する事故は年1件程度となっており、歩行者の安全性は概ね確保されている。
- ・年によってばらつきが見られるものの、車両対車両、車両対自転車の事故件数が大半を占めており、自動車及び自転車の交通安全対策が必要である。

4. 成果の評価・効果発現要因

◆その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標) 和泉中央駅前広場 バスターミナルへの一般車交通量



総合所見

バスターミナルへの一般車の流入は見られず、快適で安心・安全な駅前空間を維持している。

5. 今後のまちづくり方策の検証

◆成果を持続させるために行う方策の今後の課題等 (整備した駅前広場や情報板の適切な維持管理)

施設の整備から年数も浅く、損傷などの状況は見受けられないが、今後、経年による劣化が想定されるため、引き続き点検や維持補修を行う必要がある。

◆改善策の今後の課題等 (道路・公共交通に対する市民の満足度の向上)

- ・事業実施により、一定の効果が発現したと考えられるが目標未達成となっている。
- ・府が実施する事業(一般府道三林岡山線 道路改良事業)との連携や策定を進めている自転車活用推進計画に基づく整備など、引き続き、誰もが快適で安心して住み続けられるまち《スマイル(住まう・居る)都市》の実現に向けて、取り組みを進めていく必要がある。